「演劇で手話の深さを知る」

講 師

岐阜ろう劇団いぶき
代表 **河合依子**氏

銀行員としてお勤めの傍ら、1982年に岐阜ろう劇団いぶきを結成。
以来、35年にわたり代表を務める。
ろう劇団の先駆者として、全国各地で公演を行うほか、学校や一般市民向けのワークショップなどにも取り組んでいる。

みなさんこんにちは。
先ほどご紹介をいただいた岐阜ろう劇団代表の河合依子と申します。よろしくお願いします。
北海道には20回くらい公演や旅行で来ています。この公演の下見のために今年の夏、石狩市に来ました。手話ができる職員がたくさんいてびっくりしました。そして、市役所には手話通訳者が3人もいると聞いて本当に驚きました。岐阜市は日本のまん中くらいにあります。名古屋に近いところです。人口は40万人くらいですが手話通訳者は1人だけです。職員は誰も手話ができません。岐阜市は手話言語条例もまだまだですし、非常に厳しい状況です。石狩市の職員はとても温かく、みなさんが手話で迎えてくれました。「おもてなし」の心ですね。美味しい食事もいただきました。

さて、岐阜ろう劇団いぶきは結成から今年で35周年になりました。35年間さまざまな苦労がありました。もちろん良いこともたくさんありました。やはりろう者が演劇をするのには手話が必要です。手話がないと劇を見る人も演じる人もおもしろくない訳です。手話をつけてやっと楽しめます。ろう者の文化を向上することもできます。
いぶき結成のきっかけをお話したいと思います。昭和55年に黒柳徹子さんのお世話で名古屋市においてアメリカのプロのろう者劇団デフシアターが開催されました。アメリカと日本の手話は違うのですが、なんとなく伝わってくるものがありました。ハートに伝わる表現を見ることができました。本当に心地よい時間でした。劇がしたいと思いましたが劇団がありません。もやもやした気持ちのときにろう者劇団のセミナーを受けました。北海道からも2人来ていました。そこで世界的に有名なパントマイムのヨネヤマママコさんに学ぶことができました。そのときは聞こえる人も聞こえない人も一緒に学びましたが、ヨネヤマさんは「ろう者には聞こえる人が持っていないものがある。見る力がある。観察力がある。聞こえる人は声に頼ってしまうために見落としてしまうことがある。」と言っていました。
パントマイムでキャッチボールをする場合は、実際にはボールを持っていませんが、ボールの大きさ、硬さ、重さや投げる速さなどをボールがあるように表現していきます。パントマイムは目がとても大切です。手話サークルで教えるときに「よく見なさい」ということを伝えます。
岐阜のろう者に呼びかけて昭和57年1月に岐阜ろう劇団いぶきの旗揚げをしました。いぶきという名前の由来ですが、岐阜県と滋賀県の境に山があります。伊吹山と言います。息吹くという意味も含めて「いぶき」とし、手話表現も作りました。旗揚げをしたばかりのときは台詞がないパントマイムのような安寿と厨子王という劇をしました。手話劇ですからずっと無言です。地元に聞こえる「はぐるま」という劇団がありますが、その代表の小林さんが支援をしたいと言ってくださって、安寿と厨子王の台本を書いてくださいましたが、台詞が長く、ろう者は国語力が苦手な人が多いので手話表現が難しかったのです。小林さんに台詞を短くしてもらうように頼んだところ、劇は台詞があるものと言われました。私は若かったこともあって台詞をカットしてほしい、カットした部分は動きで表現できると言って、手話や動きで表現できることを改めて理解してもうことができました。
15、6年前にオーストリアの演劇祭に呼ばれましたが資金がないので、北海道から九州まで全国公演をして資金を作ろうとしました。でも失敗しました。人形物語のチラシを見て浄瑠璃人形のほうをイメージされたようで多くの方には見ていただけませんでした。30人という会場もありました。オーストリアでは当然手話が違いますが、できる範囲で向こうの手話に変えて公演をしました。
聞こえる人は台詞を勉強しますが、ろう者の場合は手話を磨きます。きれいに大きく表現をします。みなさんはトンボをどのように表現しますか？舞台ではっきり見せるためには観察力が必要になります。トンボはバラバラに羽を動かしながら四角を描くように飛びます。鳥も大きさによって飛び方や表情もつけてそれぞれ表現します。松尾芭蕉の有名な俳句「古池や蛙飛び込む水の音」はこのように表現します。状況をイメージして視覚的に表現する方法です。
これから見ていただく通夜の席の表現を見ていただきたいと思います（通夜、お葬式、ひさしぶり、亡くなる、検視など）。手話劇の場合は手話がわからない人のために字幕を付けていますが、できれば手話を見てほしい。手話の美しさを見ていただきたいと思っています。

子どものころから手話を覚えて成長していけば、聞こえない人たちに対しても上手に接することができるようになると思います。石狩では高校でも手話語の授業が始まったと聞きました。本当にすばらしいことだと思います。聞こえない人のことを理解するのは難しいですよね。以前、病院に行ったときに声で名前を呼ばれました。呼ばれていることがわからないので、まだか、まだかと1時間以上も待って、問い合わせたら「さっき呼びましたよ」と言われました。受付に聞こえないことを伝えましたが、看護師に伝わっていませんでした。
手話はろう者だけのものではありません。みなさんも突然、話ができなくなる、声が出なくなる、聞こえなくなる、そのようなことがあるかもしれません。対面の場合は書いて伝えられますが、話が早いと書くのが追いつかないことがあります。手話であれば同時にコミュニケーションができるのです。

35周年を迎え、次は40周年、そしておばあさんになるまで劇団を続けていきたいと思っています。北海道にもろう劇団があったと思います。みなさんで盛り上げていただきたいと思っています。昭和60年代には30以上あったろう劇団も今では10以下になってしまいました。
手話は言語です。ぜひ皆さんにも手話の大切さを知ってもらいたいと思います。